

## 初夏の会津～仏都会津をめぐる～

会津藩23万石の城下町として知られ、各所に歴史的な史跡が点在する会津若松市ですが、それよりはるか昔から奈良・京都・鎌倉・平泉と並び、『日本五大仏都』のひとつだったというのはご存じでしょうか。

会津の寺院や仏像は、歴史的に古いものが多く、平安時代初期のものをはじめとして多数存在します。

日本古くからの歴史的要素から遠く離れた会津の地で仏教文化が開いたのは、最澄・空海らと仏教について意見を戦わせた「徳一(とくいつ)」という法相宗の高僧が会津を訪れたことにはじまります。

今回は、仏都会津の歴史と文化をいくつかの寺院を巡りながら紹介します。

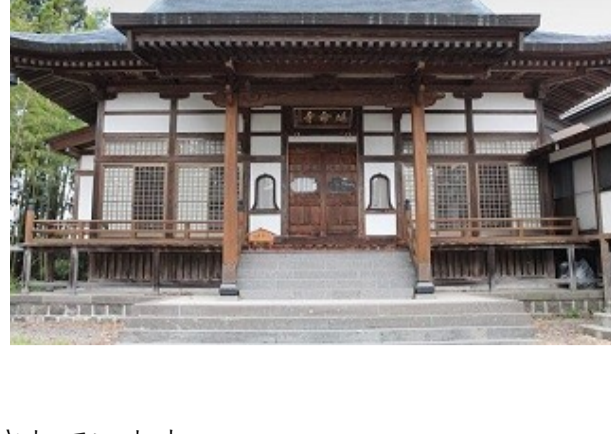
### 延命寺

会津若松市河東町にあり、大同2年(807年)に徳一によって建立されたと伝えられています。

延命寺の地蔵堂は室町時代初期から中期の建物と推定され、大屋根の下に重層の屋根があることから藤倉二階堂とも呼ばれています。寺院建築に神社建築の要素を取り入れた独特な工法とされ、東北の中では唯一のものとされます。

昭和25年(1950年)に国指定重要文化財に指定されています。

(撮影日：2015/7/2)



### 天寧寺



会津東山温泉の近くにある天寧寺は、応永28年(1422年)、会津に来た傑堂禅師が11代芦名盛信の建立により創立したお寺です。新選組の近藤勇の墓があり、4月25日の命日には、墓前祭りが開催されます。

また、会津藩主容保公が京都守護職にあつた際の国家老で、「主君には罪あら

ず。抗戦の罪は全て自分にあり」と一身に罪を背負い切腹した萱野権兵衛と、その次男郡

長正の墓もあります。

(撮影日：2015/6/30)



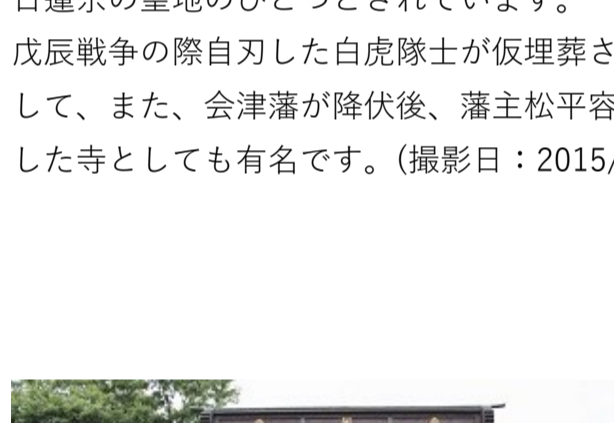
### 妙国寺



飯盛山にほど近いところに妙国寺はひっそりたたずんでいます。

応永元年(1394年)、日仁上人が開山した日蓮宗のお寺で、日蓮宗の聖地のひとつとされています。

戊辰戦争の際自刃した白虎隊士が仮埋葬されたところとして、また、会津藩が降伏後、藩主松平容保親子が謹慎した寺としても有名です。(撮影日：2015/6/30)



### 興徳寺

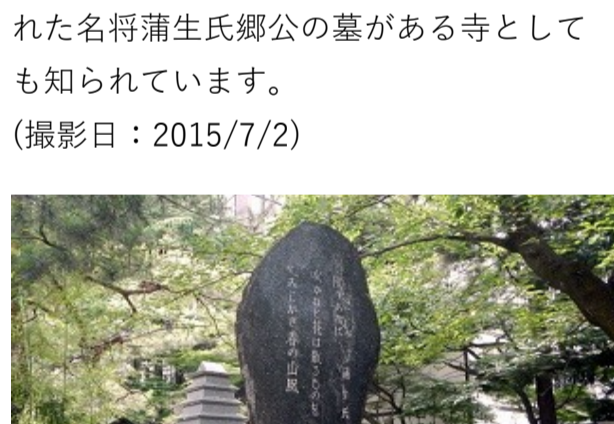
興徳寺は臨済宗の寺で、弘安10年(1287年)創建されました。

秀吉が奥羽仕置のため、会津へきたときに三泊したほどの大寺院だったそうです。

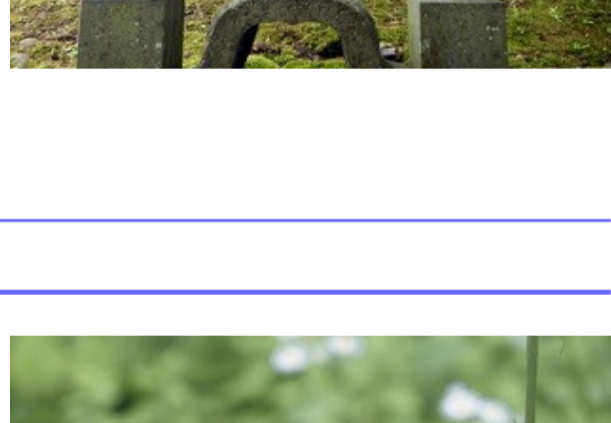
現在のお寺は、明治10年の鶴ヶ城解体の際に出た余材を利用して建立したものです。

会津若松の基礎をつくった文武両道に優れた名将蒲生氏郷公の墓がある寺としても知られています。

(撮影日：2015/7/2)



### 御山観音堂



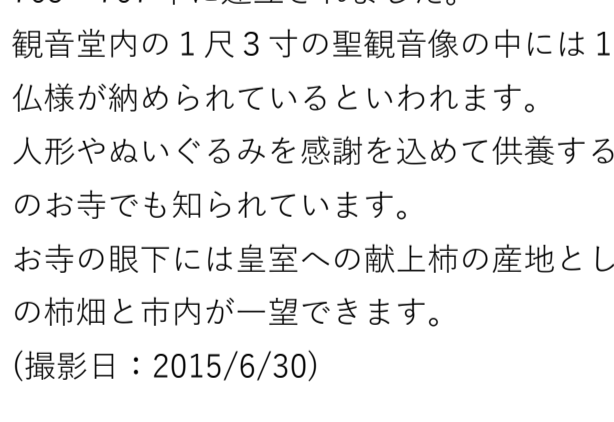
「会津三十三観音」第20番札所になっている照堂寺は、765～767年に建立されました。

観音堂内の1尺3寸の聖観音像の中には1寸8分の小さな仏様が納められているといわれます。

人形やぬいぐるみ感謝を込めて供養する「お焚き上げ」のお寺でも知られています。

お寺の眼下には皇室への献上柿の産地として知られる御山の柿畑と市内が一望できます。

(撮影日：2015/6/30)



### 会津さざえ堂 (正式名称：円通三匠堂)

会津さざえ堂は、1796年飯盛山に建立された、高さ16.5メートル、六角三層のお堂です。当時飯盛山には正宗寺というお寺があり、その住職であった僧郁堂の考案した建物です。

その独特な2重螺旋のスロープに沿って、明治初期の神仏分離までは西国三十三観音像が安置されていました。

また、上りと下りが別の通路になっている一方通行の構造により、世界にも珍しい建築様式を採用したことで、建築史上その特異な存在が認められ、平成7年に国重要文化財に指定されました。

(撮影日：2015/7/2)

